

「秋田大学学生海外派遣支援事業」 帰国報告書

記入日：2009年3月2日

所属：教育文化学部 国際言語文化学部 日本・アジア文化課程3年

氏名：菅野 里美

派遣先大学名（国）：ハンバット大学（大韓民国）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2008年8月～2009年1月

渡航年月日：2008年8月28日

帰国年月日：2009年1月19日

○ 研究・学習概要及び今後の勉学計画

交換留学先であるハンバット大学では日本語学科の学生と一緒に日本文化や日本語教材研究の授業を受けたが、こうして学んでみると自国の文化や言語について知らないことがたくさんあり、私にとって講義で学ぶことはもちろん「日本」を見直すきっかけともなった。

そして韓国語を習得することで、韓国人が日本語を学ぶ際にどこでつまずき、なぜ理解に屈するのも理解できるようになるため、いかに日本語を習得しやすくするかを考え、今後は日本語学も学びたいと考えている。そして留学生活で韓国人と交流し理解しえたことを生かした仕事に就くことが今の目標である。

○ 生活面について

今回の留学で交換留学生在が自分ひとりということもあり、韓国人学生との交流を大切に、行事や集まりなどがあれば必ず参加した。また私の場合、ハンバット大学で日本語学科の学生に混じり講義を受けるなか、語学（韓国語）は夕方語学学校へ通い学んでいた。語学学校では私を含め7カ国の受講生がおり、そこでの交流も私にとって大変貴重なものとなった。

また寮では二人部屋で私は中国人と一緒に生活をしていたこともあり、韓国へ留学をしたが韓国人以外にも本当に多くの国の人と出会うことができ、また同じアジア圏でもこんなにも文化や慣習が違うものなのかと身をもって文化の違いを感じることができた日々であった。

○ その他留学全般にわたる感想

交換留学生として韓国で約半年間生活をするなかで、本当に多くのことを学び一生に残る貴重な経験をすることができた。旅行や短期の滞在では垣間見ることのできない現地の内側からの文化を知り、驚きや戸惑いを感じながらも刺激的で充実した毎日を過ごすこと

ができたと思う。

留学生活で語学や文化だけではなく、礼儀や友達との付き合い方なども学ぶと同時に、日本の文化や韓国の人が日本をどういう視点で見ているのか、「日本」を客観的にみることによって改めて自国について考えさせられることも多かった。

また、私が韓国に留学に行く頃、ちょうど竹島（独島）問題が激化しており、不安を抱えながら韓国に降り立った記憶がある。実際に「独島問題をどう思う？」などと聞かれることが度々あり、私は返事に戸惑った。

私は韓国の友達と隔たりなく仲良くなるにはできるだけ相手の反感を得るような話題は避けたいと思っていたが、今回のことがあり、私は自分たちが解決できない問題であろうとお互いがどう考え、感じ、教わってきたのかを十分に理解し合うことが大切だと考えるようになった。そして日韓、日中間で起こった問題について友達と本音で話し合うことで、自分のメディアから受ける一方的な考えに気づくきっかけとなり、また今まで以上に和解していない国際問題について身近に感じ真剣に考えるようになった。

日本人留学生が誰一人いない中ででの留学生活は、不安や不便なことが幾つかあったものの、思い返してみると、その分韓国人学生の友達に囲まれ、思う存分「韓国」を味わう最高の境遇だったと感謝したい。私の留学生活はもう半年続くが、語学勉強にとどまることなく、今まで以上に出会いと発見に満ちた充実した日々を送りたいと思う。

